

津屋崎千軒 町並みフォーラム登壇者



かわぐち ともひろ
川口 智廣さん

(一社)全国古民家再生協会まちづくり理事、住まいるクオリティ(株)代表取締役。うきは市などで古民家再生、活用を事業化



おおもり ようこ
大森 洋子さん

久留米工業大学工学部建築・設備工学科教授、福津市景観審議会会長。津屋崎千軒をはじめ市内の良好な景観の形成に関わる



せん そうてつ
千 相哲さん

九州産業大学地域共創学部学部長。第2次福津市観光基本計画では計画策定委員会の委員長を務める



なかむら るみ
中村 留美さん

(一社)ふくつ観光協会事務局長。第2次福津市観光基本計画では計画策定委員会の副委員長を務める



▲会場となった豊村酒造(右)と津屋崎千軒の町並み

特集

津屋崎千軒と福津観光の

これからを考える

NPO法人津屋崎千軒を未来につなぐ会と福津市の共催による「津屋崎千軒町並みフォーラム」を10月6日、豊村酒造で開催しました。より多くの皆さんに津屋崎千軒の価値や重要性を知ってもらい、持続可能なまちづくりを進めていく第一歩として開催したこのイベントには、当日80人の定員に対し100人を超える来場があり、その関心の高さをうかがわせる結果となりました。

問い合わせ 市地域振興課 ☎62・5014

フォーラムでは、市やNPO法人のこれまでの活動・経過報告の他、古民家再生や観光学の専門家による講演や、クロストークなどを行いました。

講演① 伝統建築物の価値と活用 川口 智廣さん

私は今、古民家再生を手掛けている会社を運営していますが、全国古民家再生協会から打診があり、古民家鑑定士としても活動をしています。ちなみに古民

わりではなく、そのあとまでしっかりと考える事業計画が必要と考えています。古民家再生は志があるかないかです。それで決めていくべきだと思っています。福津はベッドタウン化が進んでおり、古民家に住みたい人も増えると思います。私の提案としては、オンラインワンとなる資源を決めること。次に誰とは言わずみんなで盛り上げていく場づくりに加わっていただければと思っています。そして積極的な課題解決のための肯定的な提案ができる

家とは、築50年以上の木造住宅のことです。

古民家を再生するときに心がけていることは「木の個性を観察すること、どの位置に使えば木が喜ぶか」という棟梁の言葉です。古民家の木組みや梁組みは、今の工業製品化された建物では考えられないことなのです。古民家を再生し、建物を現在から未来につなげていることを思えば、自分たちにはできないこともっとあるのではないかと考えています。まちづくり、古民家再生の考え方は作って終



▲定員を超える来場者でにぎわう会場

場づくり。最後に、若い人が楽しく活動できる場づくりに皆さんが努めていただきたいと思っています。



計画の 市民意見を公募

第2次福津市観光基本計画の素案に対する意見や提案を募集します。意見や提案に対して、個別に回答はしませんが、審議した結果は、個人情報を除いて公表します。

素案の公開、意見の募集期間

12月17日(火)～令和2年1月15日(水)

素案の閲覧と意見提出箱の設置場所

市役所、市立図書館、ふくとぴあ、中央公民館、宮司コミュニティセンター、津屋崎行政センター、カメラステージ図書・歴史資料館 ※各郷づくり拠点施設では閲覧のみ可

意見を提出できる人

市内に在住、在勤、在学する個人や団体など

意見提出方法

意見は紙に書くか、メールなどの必ず形に残る方法で、個人の場合は住所、氏名、団体の場合は団体の名称と代表者の氏名を明記してください

郵送で提出する場合

〒811-3293 (住所不要) 市まちづくり推進室宛 ※令和2年1月15日(水) 消印有効

市公式ホームページから提出する場合

トップページの「意見の提出はこちらから」をクリックし、所定のフォームに入力してください

メールで提出する場合

info@city.fukutsu.lg.jpに送ってください。ただし、送信データが10MBを超えると受信できない場合があります。事前にご確認ください

ファクスで提出する場合

FAX43・3168に送ってください。受信確認のため、送信後に市まちづくり推進室に電話連絡をお願いします

問い合わせ

市民意見公募手続きの内容について
市まちづくり推進室 ☎43・8113
素案について
市地域振興課 ☎62・5014

や酒造りなど、ここにしかできないプログラムができるのではないかと思えます。
大森：最後に津屋崎千軒の活性化の可能性や魅力について皆さんのご意見をお願いします。
川口：おもてなしの気持ち、古民家をしっかりと活用して次に残すということをぜひ津屋崎でも実践してほしいです。
千：津屋崎地区で2時間滞在できるメニューをぜひ考えていただきたいと思えます。
中村：自分のふるさとがいかに美しい場所であるか、それを広げていくことに尽力したいと思います。

市では、観光客の誘致を促進するとともに市内の多彩な観光資源の連携を図って回遊性を高め、観光事業を充実させ、地域産業のさらなる活性化を目指し、第2次福津市観光基本計画の策定に取り組んでいます。
これまでの来訪者調査の実施や策定委員会の開催などを経て策定した計画の素案に対して、市民意見を公募します。多くの皆さんのご意見をお待ちしています。

皆さんの意見を お待ちしております

講演② 観光基本計画について 千相哲さん

私は第1次福津市観光基本計画の策定に携わりました。平成22年に策定したこの計画は、10年計画としました。第1次計画策定にあたり関係者にヒアリングしたところ、福津の観光振興には問題が多いという結果が分かりました。観光振興には地域全体が取り組む必要があるということから「地域総体産業」として取り組むことを位置付けました。そのための推進体制やもてなし力、発信力をどうするかを決めていくとともに、観光産業活性化協議会という団体を立ち上げ、推進していきました。

現在、第2次計画を作っていく中で、観光の事業スピードが速いことを勘案し、事業の進捗状況について10年のうち2回は見直すとしています。観光入り込み客数については目標を達成できていますが、滞在時間が短い、消費額が少ない、また来訪者のニーズに応えられていないかという点も不十分です。
観光は地域の取り組み方も問われています。第1次計画では

量を求める計画でしたが、これからは質が問われます。観光入り込み客数は大きく増やさないが、消費額や宿泊者数は大きく増やすチャレンジをすることとし、目標値に掲げています。第2次計画は、第1次計画に引き継ぎ「地域総体産業Ⅱ観光振興」を掲げ、交流人口だけでなく関係人口の増加にももっと取り組むこととしています。ブランド力、回遊性、価値、観光客が訪れて本当に良かったと感じられる福津の資源を磨いて提供しようと考えています。資源が点で終わるのでなく線・面でつなぐこと。これらをPDCAサイクルで検証しながら、地域ニーズを捉えて進めていくこととしています。

クロストーク これからの観光と 津屋崎千軒の役割

大森洋子さん(以下、大森)：国は「明日の日本を支える観光ビジョン」で観光を地方再生の切り札としています。観光による地方創生が重要な柱で、観光振興は地域の経済活性化でもあります。観光の文化や景観を残すため、また地域の誇りを守

るためでもあると思われる。観光地域づくりのかじ取り役である「DMO」は、観光関係者だけがもつかるのではなく地域が全体として活性化する官民共同の組織です。地域密着型の組織であり、観光まちづくりの一つとして地域が発展していくために必要な組織と思えますが、中村さんが思う地域の魅力と課題は。
中村留美さん(以下、中村)：福津は博多から電車でも25分で着き、便利です。「光の道」で全国区になり周囲の人からうらやましがられています。観光案内をしていて思うのは「宮地嶽神社にはどう行けばいいですか」とほとんどの人から聞かれることです。神社に来る観光客に、その先にどう行ってもらうか、滞在時間をどう伸ばすか、消費額をどう上げるかが課題です。
大森：千先生、周遊ができていない、お金が落ちていない状況で、地元への還元のためどのような活動が必要ですか。また津屋崎の魅力は。
千相哲さん(以下、千)：福津は観光が発展する可能性を秘めています。特に北九州市と福岡市の間で立地が良い。一方

で最近の観光志向ですが、これまでの「見る、食べる、遊ぶ」から「体験する、交流する、学ぶ」に変わっています。福津がどういったものを提供しているかという点、10年前とあまり変わっていません。今は「コスト消費」であり必ずしも「モノ」ではありません。それらを伝える必要があるのではないのでしょうか。それにより滞在時間が伸びると思います。
大森：川口さん、古民家という建物だけで宿泊は成り立つのでしょうか。また津屋崎で何ができるのでしょうか。
川口智廣さん(以下、川口)：古民家での宿泊が望まれているのかを相手目線で見つけた方が良いと思います。私は津屋崎をすぐく可能性がある地域、特別なエリアと思っています。「コト」については、例えば塩作り

福津の魅力を生かした 持続可能な観光のまち

目標像

<h3>基本方針1</h3> <p>国内外の人が何度も訪れたくなる魅力を磨く 本市の財産である自然資源・歴史資源・景観資源をしっかりと守りつつ生かして、国内外の人が何度も訪れたくなるまちを目指します。</p>	<h3>基本方針2</h3> <p>観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する 市内中心部に位置する宮地嶽神社エリア、海岸エリア、津屋崎千軒エリアの主要拠点の整備と、市内に点在する世界遺産の古墳群エリア、畦町エリア、自然公園やキャンプ場、直販施設への誘導を促進します。</p>	<h3>基本方針3</h3> <p>ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化する 「福津」のブランド・イメージを効果的に伝え、市内外のかたがたが福津に関心を持ち、愛着を感じてもらえるように、ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化します。</p>
--	--	---

▲第6回福津市観光基本計画策定委員会で議論された計画(素案)の内容の一部



観光とまちおこしの拠点である津屋崎千軒なごみ